

令和元年度 第1回  
島田市中小企業・小規模企業  
振興推進会議

令和元年5月22日

議事要録

## 令和元年度 第1回島田市中小企業・小規模企業振興推進会議

### 議事要録

|          |                                  |  |
|----------|----------------------------------|--|
| 会議体の名称   | 令和元年度 第1回島田市中小企業・小規模企業振興推進会議     |  |
| 事務局（担当課） | 島田市産業観光部 商工課                     |  |
| 開催日時     | 令和元年5月22日（水） 14：30～15：30         |  |
| 開催場所     | 島田市役所4階 第3委員会室北                  |  |
| 議題       | 島田市中小企業・小規模企業振興基本条例 勉強会を受けての意見交換 |  |
| 出席者      | 委員                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島田商工会議所 北川専務理事</li> <li>・ 島田市商工会 小野田事務局長</li> <li>・ 中小企業家同友会志太支部 戸塚条例推進会議 島田担当</li> <li>・ 島田市商店街連合会 清水会長</li> <li>・ 有限会社落合製材所 落合代表取締役</li> <li>・ 新東海製紙株式会社島田工場 田邊工場管理部長</li> <li>・ 島田信用金庫 三浦理事</li> <li>・ 株式会社静岡銀行島田支店 伏見支店長</li> <li>・ 島田榛北地区労働者福祉協議会 鈴木会長</li> <li>・ 島田市校長会 園田初倉中学校長</li> <li>・ 島田市 谷河産業観光部長</li> </ul> |
|          | 事務局                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中村商工課長</li> <li>・ 菊池商工課参事</li> <li>・ 黒田商工係長</li> <li>・ 松浦主事</li> </ul>  |

|      |   |
|------|---|
| 配付資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和元年度第1回島田市中小企業・小規模企業振興推進会議席次表</li> <li>・ 令和元年度島田市中小企業・小規模企業振興推進会議委員名簿</li> <li>・ 【資料1】平成30年度島田市中小企業・小規模企業振興推進会議について</li> <li>・ 【資料2】令和元年度島田市中小企業・小規模企業振興推進会議スケジュール案</li> <li>・ 【資料3】島田市中小企業・小規模企業実態調査について</li> <li>・ 【資料4】島田市中小企業・小規模企業実態調査スケジュール案</li> <li>・ 【参考資料1】島田市における中小企業支援施策</li> </ul> |
|------|---|

## 【議事録】

○事務局

定刻となりましたので、只今より令和元年度 第1回中小企業・小規模企業振興推進会議を開催いたします。第1回の会議ですので、会長が選出されるまでの間、事務局で進行を務めます。会議に先立ちまして、委員の出席者数を報告します。定数11人のうち、本日は11人全員が出席し、過半数を超えておりますので、「会議規則」第3条第2項の規定により、会議は成立しています。

なお、本日は先程の勉強会にてご講演いただきました静岡県中小企業家同友会相談役 河原崎さんにオブザーバーとしてご参加いただくことになりました。河原崎さん、どうぞよろしくお願いたします。それでは、次第に従って進めていきます。

はじめに、牛尾副市長より一言ご挨拶申し上げます。

○牛尾副市長

皆さん、改めましてこんにちは。島田市副市長の牛尾でございます。それぞれお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、河原崎さんには貴重なお話をいただきまして、ありがとうございます。振興条例については、皆さんのご要請やお気持ちもあってなんとか条例化でき、中小企業の皆さんと一緒にやっていくという大儀はできた訳ですが、中身をどうやって進めていくかということは大変難しい問題でして、今日は具体性のあるお話を聞いて本当によかったなと思います。条例ができただけでは…ということをよく言われますが、今日のお話を参考に、我々も一緒にやっていきたいと。特に参考になったのは、市の40代くらいで優秀な、将来何かをやってくれそうな職員と民間の方が、一緒に情報共有することが将来に繋がっていくんだというお話でした。富士宮市には若手の未来創造塾が、その上に懇話会があって、そこで出した結論が行政への働きかけとして繋がっていくという構図も見て取れました。ここがそういう舞台になるように、一生懸命やっていきたいと思っております。是非、よろしくお願いたします。

○事務局

それでは、牛尾副市長より委嘱状の交付をお願いします。

～委嘱状交付～

○事務局

牛尾副市長は公務の都合により、ここで退席させていただきます。続きまして、委員と事務局の紹介ということで、まず委員の皆さん

から自己紹介をお願いします。

～自己紹介～

○事務局 次に、会長の選任へ移ります。島田市中心企業・小規模企業振興推進会議規則第2条より、会長は委員の互選により定めることとなっておりますが、立候補やご意見はありますか。

(立候補、意見なし)

では、事務局の案を提示させていただきたいと思います。島田商工会議所の北川専務理事にお願いしたいと考えていますが、いかがでしょうか。

(異議無しの声)

それでは、北川専務理事に会長をお願いし、これから先は北川会長に進行をお願いしたいと思います。会長よろしく申し上げます。

○北川会長 ご選任いただきありがとうございます。  
引き続き、次第に従い会議を進めさせていただきます。  
次は先程の勉強会を受けて、河原崎さんと委員の皆さんとで意見交換ということですが、はじめに昨年度の振り返りと、現在の島田市の状況を河原崎さんにお伝えする必要があるかと思います。  
よって、まずは事務局より、現在の島田市の推進会議の状況について説明いただきたいと思います。

○事務局 事務局より説明させていただきます。  
資料1を元に、平成30年度の会議のふり返りについて説明した。  
資料2を元に、令和元年度の推進会議スケジュール案について説明した。  
資料3 資料4を元に、令和元年度に実施する実態調査概要及びスケジュール案について説明した。

○北川会長 ただいまの事務局の説明に対し、皆さんから質問やご意見がありましたらお願いします。

○OA委員 実態調査については、督促をしてもかなり回収率が低いと思われます。督促をどの程度行うか、やり方もかなり工夫しなければ、場合によっては電話作戦なども必要になるかと。

- 北川会長 2,000件送付した内、有効数をどの程度見込んでいるのでしょうか。
- 事務局 何件という統計的なものを考えると、数字としては500件程度あれば満たされると思いますが、それで実態が把握できるかという疑問がありますし、事実足りないと考えています。督促や電話勧奨など工夫をしていかないと、調査をした意味がないということになりかねません。
- OB委員 訪問ヒアリングによる成果について、もう少し詳しく教えてください。
- 事務局 まだ詳細まで詰め切れていない部分がありますが、紙面調査では把握しることができない、事業者の率直な困りごとや背景にあるもの、本当はこういう事業に取り組みたいと考えているが話す機会がないだとか、そういった生の声を伺いたいと考えています。
- OB委員 ある程度、事業規模や業種を考慮しながら、バランスよくやるというイメージでしょうか。
- 事務局 そのとおりです。
- 北川会長 資料の説明については、この辺りで終わります。今年度の事業内容について、皆さんご理解いただければと思います。  
それでは、意見交換に移ります。先程の勉強会を受けて、率直なご質問ですとか、更に深掘してお聞きになりたいことなど、皆さんの意見をお聞かせいただければと思います。
- OC委員 先程の河原崎さんのお話の中で、富士宮市の懇話会は藤枝市の推進会議と内容が似ており、島田市の推進会議とは市の進めたい方向性が異なっていると感じました。富士宮市の懇話会のような組織をつくることは、島田市の目的とはしないのでしょうか。
- OD委員 今のところ会議の方向性を決めるまでに至っておりませんが、富士宮市のように、自由な意見を行政に提案するやり方はとても参考になります。ですので、従来通りの会議ではなく、変革というか、何かを実現するような会議の運営をしていきたいと考えております。

- 北川会長                   事務局はどう考えますか。
- 事務局                   藤枝市については、会議が2つの階層になっていると聞いています。島田市としては、はじめから部会等の階層を設けるのではなく、ここにいる委員の皆さんでまずは議論をして頂いた方が、実態に近い方向に進んでいくのではないかと思います。富士宮市のように、その時々に必要なテーマを皆さんで話し合い、施策に反映させていければと。
- OC 委員                   島田市には富士宮市の懇話会のような組織が全く無いため、我々がこの場でいくら話し合っても、それを展開することができません。我々はまず、こういった組織づくりをメインで行う必要があるのではないのでしょうか。
- 事務局                   島田市には産業支援センターがあり、藤枝市のエフドアと同様の役割を担っています。ただ、推進会議に連なる体系として落としきれていない部分はあるかと思います。
- 北川会長                   組織づくりが目的ではなく、この会議の場で何をやるのかということではないのでしょうか。元々、条例を制定する際に推進会議に望んでいたものというのは、市の施策に対して、現場の生の声を入れ、本当に必要とされる支援策を知るということが、一番大きな部分だったと記憶しています。ですから、委員の皆さんには各団体の声を拾いこの会議で出していただいて、それを委員で検討した後、市の背策に反映させ形にしていくというのが基本的な振興会議の進め方ではないかと。下部組織を置いた場合、そこから上がってきた意見を可否判断するだけで終わってしまう気がしますが、河原崎さん、いかがでしょうか。
- 河原崎氏                   下部組織をつくっても、血が通わなければ意味がありません。先程お話した未来創造塾は、組織立ったものでなく有志の集まりです。行政と経済団体の若手が自然発生的に集まって、その面倒をみるために私達がおりました。条例が制定され懇話会ができてみると、いつの間にか未来創造塾の意見が懇話会にどんどん吸い上がってくるようになっていったということにして、組織をつくったという感覚はないんです。

- 河原崎氏 懇話会メンバーには、必ず毎回テーマを持ってくるように伝えていきます。できる・できないは別にして、それを懇話会の場へ上げ、我々がぐちゃぐちゃやってみると何か生まれる。ですから、委員がそれぞれ各団体の意見を吸い上げるバキュームとしての役割を担い、意識的に会議の場へ引き上げてくるという姿勢が大切ではないかと思います。
- 北川会長 今の河原崎さんのご指摘について、皆さんいかがでしょうか。
- OE 委員 血が通っていないとはじまらないというのは本当にそのとおりでして、我々がいかに色々な人と話をして、それを吸い上げることができるか、まずはそこにかかっているなと感じます。
- OF 委員 市の施策に対しての現場の声を聞きたいというのと、富士宮市のように施策を市へ提言していくというのでは、根本的に違う部分があるのではないのでしょうか。会議としてどちらの方向で進めていくのが良いのか。
- 北川会長 市が施策をつくるための種を我々が蒔くという、市が主語の会議なのか。または富士宮市のように懇話会が主語で、懇話会が施策をつくっていくのかという点で異なりますね。島田市の推進会議はどちらの方向で進めていくべきなのか。
- OG 委員 私も商工会議所や市の会議に出席しますが、どこも比較的似ていると感じています。商工会議所や各部会でも様々な提言が出ていますし、実はそういった情報やコンテンツは多く存在していて、それをどう動かすかにかかっているという印象を持っていました。組織はいくらでもあっていいと思いますが、どの情報をどう抽出してどう活かすか、それは市の仕事でしょうか。この会議ができたということは、会長がおっしゃったように主語をどこに置き、どう運営していくかということではないかと思います。
- OC 委員 富士宮市には商工会議所や商工会、懇話会など様々な組織がありますが、それぞれで出た意見を懇話会でまとめるということなのでしょうか。

- 河原崎氏 商工会議所で行うのは、よくあるお仕着せの要望書の提出です。行政への要望が通らなかった場合、また次年度に継続で要望書を出すということの繰り返しで、懇話会のやり方とは全く違います。懇話会では、行政の関係部署を呼び、その場で意見をぶつけ、行政がどう答えるかということを毎回やっています。ですから行政も議会で回答するように、高い意識を持って会議へきてもらう必要があります。振興条例自体はどの市も同じ内容だと思いますが、その中に常にあるのが、中小企業活性化のため行政が何を行うかということ。今まで、行政が中小企業に対し何かをやらなければならないという法律はなかったんです。条例ができたからには、行政も構えてやっていただかないと。
- 北川会長 結論として、この推進会議をどういう形に持っていくかについては、皆さんいかがでしょうか。
- OC 委員 富士宮市を参考にして、我々がある程度、地域を活性化させる施策を会議の場で提案し、それを各団体に持ち帰って検討やブラッシュアップを行うというのが良いのではないのでしょうか。市の担当部署を呼んで、提案した施策の可否を判断してもらうというのも良いと思います。ある程度決めていかないと、会議が尻切れトンボで終わってしまい、前に進まないのではないのでしょうか。
- OA 委員 私も、富士宮市は具体化して事業も動いているということですので、その方向で進んでいけば良いのではないかと思います。
- OH 委員 皆の意見を吸い上げ、市に提言する場ができるのは素晴らしいことだと思います。今の委員メンバーも良いですが、提言できる人を他から引っ張ってくることも考えながら進めていけば、将来島田市がどうやって稼いでいくのかということも見えてくるのではないのでしょうか。富士宮市の未来創造塾についても、羨ましく感じました。
- OI 委員 富士宮市は、母体が懇話会にあって、懇話会が意見をぶつけ、行政がそれに答えるというやり方です。島田市の推進会議は行政が母体ですから、行政が委員の意見を吸い上げるというのが目的ではないかと思います。富士宮市は母体が懇話会や未来創造塾があるため、自分たち自身で動くということになりますが、島田市では委員は

意見を述べる存在で、行政がその意見を判断し、行政が動くということになるのではないのでしょうか。

○北川会長 皆さん、ご意見ありがとうございます。方向性については、今後も走りながら詰めていければと。ただし、従来の行政会議のような、行政のやることを追認していくような会議ではないということを各自ご認識いただいて、ご自身の後ろにある存在の現状や要望を、遠慮なくこの場で発していただきたいと思います。今回のようにオブザーバーの出席も依頼しながら、柔軟に進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○河原崎氏 富士宮市もそうでしたが、実態調査を進めていくと、様々な問題点が見えてきます。このような調査はアンケート回収率が3割超えれば良い方だといわれますが、富士宮市は6割を超えました。商工会議所・商工会・同友会といった各組織が電話勧奨を熱心に行った結果ですが、そこまで努力をしてやっと6割です。6割を超えるとかなり実情が見えてきて、そこには企業の抱える問題点がごろごろ転がっています。それを委員の皆さんが精査して、これだというもの行政に上げていくこととなります。ですから、まずは実態調査を良いものにしていただきたい。そこから全てがはじまるのではないかと思います。

○北川会長 是非、そのような方向で進めていきたいと思います。  
その他、全体を通して言い足りないことはありますか。

○OE 委員 河原崎さんのお話では、実態調査が出発点になるということでしたが、島田市の調査を富士宮市のものを参考に行うことはできないのでしょうか。

○河原崎氏 同様な知見をもった業者に委託をしたいと思います。委託業者へ回収率5割以上を目指すよう伝えれば、業者も必死にやってくれると思います。

○北川会長 ありがとうございました。以上で、意見交換を終了いたします。これより先は、事務局へ進行をお戻しします。

○事務局

委員の皆さん、河原崎さん、ありがとうございました。次回の会議は7月中旬、実態調査のアンケート項目、対象企業等、実態調査の進捗について議論いただくことを予定しておりますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

それでは、以上をもちまして、第1回島田市中小企業・小規模企業振興推進会議を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。